

パラグアイにおけるカルテス政権以降の政治経済情勢

磯田 沙織

はじめに

本稿では、2013 年以降の政治情勢と経済情勢について要約する。パラグアイは 1989 年に 35 年続いたストロエスネル（Alfredo Stroessner）独裁政権が終わった。民政移管後は、ストロエスネルを支えた右派のコロラド党（Partido Colorado、正式名称は「国民共和協会」Asociación Nacional Republicana）が 2008 年まで政権を担う中、党内の内部対立が 1999 年の「3 月のパラグアイ（Marzo Paraguayo）」と呼ばれる政変等を引き起こした。2008 年大統領選挙では、同党の内部対立により左派のルゴ（Fernando Lugo）が大統領に当選したものの、2012 年に弾劾された。その翌年の 2013 年および 2018 年大統領選挙ではコロラド党が団結し、同党の候補者が勝利した。つまり、コロラド党の団結の有無が、パラグアイの政局を左右してきたことが読み取れる。

経済面では、一次産品に頼る経済構造のため、プラス成長とマイナス成長を繰り返す不安定さを抱えながらも、徐々にプラス成長を記録する年が増えている。2020 年は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックの影響によりマイナス成長となったが、2021 年はプラス成長が予想されている。

2013 年以降の政治情勢

2013 年 4 月の総選挙では、コロラド党のカルテス（Horacio Cartes）が大統領に当選し、同党は政権を奪還した（磯田 2013：23-24）。2008 年大統領選挙の際には、党内選挙で敗れたカスティグリオニ（Luis Castiglioni）が対立候補を支持しなかったことで、民政移管後初めて敗北したものの、2013 年選挙の際には団結に成功したため、勝利したのであった。しかし、就任後には党内の団結が綻び、党内における対立が再燃した。2016 年からカルテスが大統領再選禁止規定を撤廃するための憲法修正を試みた際も、コロラド党所属の議員の対応は分かれ、カルテス支持で団結しなかった。カルテスは 2017 年 3 月 31 日に、コロラド党の一部の議員やルゴ派の議員等の協力を得て憲法修正案を下院で可決させたものの、「第 2 のパラグアイの 3 月（Segundo Marzo Paraguayo）」

と呼ばれる大規模な抗議活動で参加者 1 名が射殺されたため、修正案の撤回を余儀なくされた（磯田 2018：39-40）。

その後、カルテスが擁立したペーニャ（Santiago Peña）を党内選挙で下したベニテス（Mario Abdo Benítez）が 2018 年に大統領選挙で勝利し、コロラド党は政権を維持した¹。しかし、2019 年 5 月 24 日に署名されたブラジルとの合意が、イタイブダムの電力に関してパラグアイ側の主権を侵害しているという理由により、2019 年 8 月 6 日に大統領および副大統領の弾劾発議案が下院で提出された（abc color 2019）。下院がその発議案を否決した後、ベニテスは 2020 年 3 月にカルテス派との間で合意を発表することで、党内の団結をアピールした（“abc color” 2020）。また、パンデミック下の 2021 年 3 月 5 日以降、政権のパンデミック対策への不満から「第 3 のパラグアイの 3 月（Tercer Marzo Paraguayo）」と呼ばれる大規模な抗議活動が発生した。3 月 17 日に下院で 2 度目の弾劾発議案が提出されたものの、再度否決された²。

コロラド党は、2008 年まで総選挙で勝利してきたものの、激しい内部対立を経験してきた。党の内部対立は、1999 年 3 月のクバス（Raúl Cubas）に対する弾劾裁判中に「3 月のパラグアイ」と呼ばれる政変を引き起こし、大統領と敵対していた副大統領が暗殺され、抗議参加者 7 名も射殺されたのである



左はカルテス前大統領、右はベニテス現大統領
出所： <https://www.launion.com.py/horacio-cartes-tiene-a-mario-abdo-como-a-un-perro-atado-afirma-analista-156734.html>

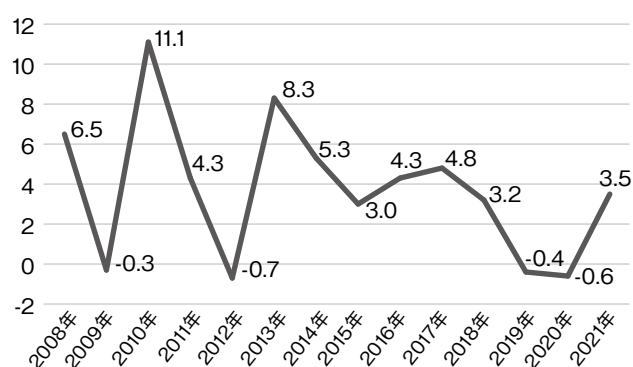
(Abente-Brun 2011:304-305)。しかし、2013年以降は、総選挙や弾劾発議案の際には党内が団結し、ベニテスは2021年8月に就任3年目を迎えようとしている。

2013年以降の経済情勢

パラグアイは農牧畜国であり、特に世界第4位の輸出量を記録する大豆の生産量および国際価格が経済を左右する。このため、干ばつで生産量が低下したり、国際価格が下落すると、GDP成長率は落ち込む。しかし、カルテス政権下ではプラス成長を維持した(図1参照)。

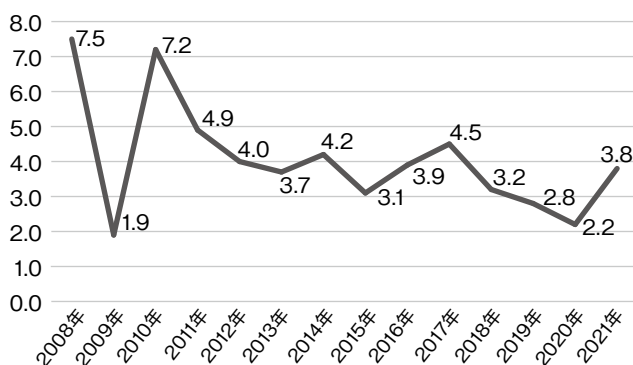
パンデミックの影響により世界規模で経済が停滞

図1：GDP成長率 (%)



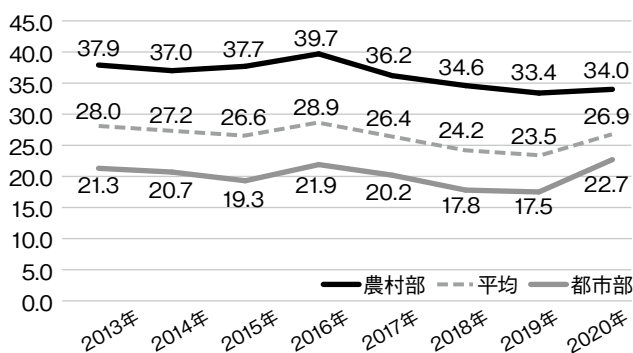
出所：パラグアイ中央銀行 注：2020年は暫定値、2021年は予測値

図2：インフレ率 (%)



出所：パラグアイ中央銀行 注：2020年は暫定値、2021年は予測値

図3：貧困率 (%)



出所：2013年から2019年はパラグアイ国家統計局、2020年はMF社
注：2020年は10月から12月までの数値

した2020年にGDP成長率はマイナス0.6%を記録したものの、2021年のGDP成長率は3.5%のプラス成長に転じる見込みである。また、パラグアイは一度も通貨を切り下げなかった国であり、2013年以降のインフレ率も低水準を保っている(図2参照)。さらに、パラグアイの貧困率は2020年までおおむね減少傾向にあった(図3参照)。貧困率の減少には、条件付き現金支給プログラム(Pograma Tekoporã)等の社会政策が貢献しており、この政策は貧困層が教育、保健衛生、住居等の公的サービスへアクセスできるよう促している(Balletbo 2018:167; MF社)³。

パラグアイ政府は2014年に、平均GDP成長率6.8%の目標を含む「国家開発プラン2030(Plan Nacional de Desarrollo Paraguay 2030)」を発表した。同プランを達成するためには、一次産品に付加価値をつけることが不可欠である(González et. al. 2019: 18-19)。このため、パラグアイ政府は積極的に外資を誘致し、パンデミック下の2020年も日本企業1社を含む16社の誘致に成功した(パラグアイ商工省投資輸出促進局)。これまでは、メルコスール加盟国が享受する関税特権をアピールすることで、製造業の誘致に成功してきた⁴。今後さらなる外資を呼び込むため、老朽化した送電網を修繕し、頻発する停電に対処することが求められる。

おわりに

パラグアイの政治経済は、パンデミックの影響を受けているものの、ベニテスはカルテス派からの協力を得て、政権を維持している。今後は、コロラド党の団結および送電網等のインフラ整備が優先課題となるであろう。

- 1 コロラド党は上院45議席のうち17議席を、下院80議席のうち42議席を、リベラル党(Partido Liberal Radical Auténtico)とルゴ派による選挙同盟(Ganar)は上院13議席を、下院30議席をそれぞれ獲得した(López 2019: 323)。
- 2 弾劾裁判直前には、カルテス派のアスンシオン市長であるロドリゲス(Óscar "Nenecho" Rodríguez)が、パンデミック対策の予算が不十分であるとツイートし、政権を強く批判した(abc color 2021a)。しかし、ベニテスはカルテス派の下院議員の協力を得ることに成功した(abc color 2021b)。
- 3 パンデミック中は、追加支給も実施された。
- 4 パラグアイで原産地証明書を取得した製品は、関税無料でメルコスール加盟国へ輸出される。

参考文献

磯田沙織 2013. 「パラグアイにおけるコロラド党の政権奪還—2013年大統領選挙分析」『ラテンアメリカ時報』第1403号、pp.23-25.

_____. 2018. 「パラグアイにおける大統領再選禁止規定—撤廃に向けた取り組みとその失敗」『ラテンアメリカ・レポート』第34巻第2号、pp.37-47.

Abente-Brun, Diego 2011. “Después de la dictadura (1989-2008).” en *Historia del Paraguay*. coord. Ignacio Telesca. Asunción: Taurus Historia, pp.295-313.

Balletbo, Idalgo 2018. “El impacto del programa tekoporã en la política social en Paraguay” *Revista Internacional de Investigación en Ciencias Sociales*, Vol.14, No. 2, pp.151-168.

González, Arturo, Eduardo Ortigoza, Cecilia Llamosas, Gerardo Blanco and Raúl Amarilla 2019. “Multi-criteria analysis of economic complexity transition in emerging economies: The case of Paraguay” *Socio-Economic Planning Sciences*, Vol. 64, pp.1-22.

López, Magdale 2019. “Paraguay en un año electoral (2018) : Trayectorias económicas, políticas y sociales en la transición entre el gobierno colorado saliente y el entrante” *Revista de Ciencia Política* Vol 39, No. 2, pp. 313-340.

参考 Web サイト

パラグアイ国家開発プラン2030 (Plan Nacional de Desarrollo Paraguay 2030)

<https://www.stp.gov.py/pnd/wp-content/uploads/2014/12/pnd2030.pdf> (最終閲覧日 2021 年 6 月 15 日)

パラグアイ国家統計局 (INE)

https://www.ine.gov.py/Publicaciones/Biblioteca/documento/5781_Pobreza%20Monetaria%202019_Boletin.pdf (最終閲覧日 2021 年 6 月 15 日)

パラグアイ中央銀行

<https://bcp.gov.py/> (最終閲覧日 2021 年 6 月 15 日)

パラグアイ商工省投資輸出促進局 (Rediex)

<http://www.rediex.gov.py/es/recuento-2020-empresas-extranjeras-invierten-usd-1-083-280-781-en-paraguay/> (最終閲覧日 2021 年 6 月 21 日)

abc color 2019. “Del pacto secreto en Itaipú al juicio político: entreguistas, antipatriotas y un frágil gobierno” <https://www.abc.com.py/especiales/anuario-2019/2019/12/16/del-pacto-secreto-en-itaipu-al-juicio-politico-entreguistas-antipatriotas-y-un-fragil-gobierno/> (最終閲覧日 2021 年 6 月 21 日)

_____. 2020. “En secreto y sin foto, Marito y Cartes sellan pactos con abrazo republicano”

<https://www.abc.com.py/edicion-impres/politica/2020/03/17/en-secreto-y-sin-foto-marito-y-cartes-sellan-pactos-con-abrazo-republicano/> (最終閲覧日 2021 年 6 月 15 日)

_____. 2021a. “Internas en ANR “Nenecho” ataca al Gobierno y el precandidato abdista a la intendencia le responde”

<https://www.abc.com.py/nacionales/2021/03/14/internas-en-anr-nenecho-ataca-al-gobierno-y-el-precandidato-abdista-a-la-intendencia-le-responde/> (最終閲覧日 2021 年 6 月 15 日)

_____. 2021b. “Diputados cartistas desoyeron al pueblo y salvaron a Abdo”

<https://www.abc.com.py/tv/abc-noticias/2021/03/18/diputados-cartistas-desoyeron-al-pueblo-y-salvaron-a-abdo/> (最終閲覧日 2021 年 6 月 21 日)

MF 社 (経済コンサルタント会社)

<https://www.mf.com.py/medios/blog/descripcion-y-analisis-de-la-pobreza-monetaria-en-paraguay.html> (最終閲覧日 2021 年 6 月 15 日)

(いそだ さおり 神田外語大学外国語学部イベロアメリカ言語学科
専任講師)

ラテンアメリカ参考図書案内



『テキーラとメスカルー同じ起源をもつアガベ・スピリッツ』

サラ・ボーウェン 小澤卓也・立川ジェームズ・中島 梓訳 ミネルヴァ書房
2021 年 6 月 364 頁 3,500 円+税 ISBN978-4-623-09110-2

メキシコ原産のアガベと呼ばれる竜舌蘭科の芯を蒸し焼きにして作られるスピリッツは、国民酒といってよいメスカルであるが、うち特定の土地で作られたのがテキーラとして世界的に知られるようになっていく。同じ起源をもつ蒸留酒について、産地の保護と保証、テキーラの品質管理と定義をめぐるルール、テキーラゆかりの地での農業をめぐる問題、原産地名称の影に隠れたメスカルとメキシコ産スピリッツの未来を調査し、名酒生産のポリティックスを解説している。著者はマイノリティや社会的弱者の視点から食をめぐる問題を研究しているノースカロライナ州立大学教授の社会学者。

テキーラ、メスカルそのものの味や種類などの記述を期待する読者には、本誌 2021 年春号で紹介した『テキーラの歴史 (「食」の図書館) (イアン・ウィリアムズ著 原書房 2019 年 <https://latin-america.jp/archives/47824>) を併せ読むことを薦めたい。

(桜井 敏浩)